

お疲れさまでした！

上演校⑬ 名城大学附属高校

「だあーれ」

ジョージ・メイスンⅡ世 作

演者と裏方が生み出す一体感

あらすじ

飛鳥、春、豊二、祥一は小学校からの幼馴染。4人で遊ぶことが多いが、飛鳥は少しこのグループに思うところがある様子。そんな中、グループ内で問題が起き、4人がすれ違い、不穏な気配が立ち込める。



お客様の声

- ・場面転換がすごかった。
- ・4人の交友関係がコンパクトにまとめられていてよかったです
- ・友情が崩壊するのがとてもリアルだった。
- ・合間合間のお笑いがよかったです。
- ・音響、照明、衣装、裏方も輝いていた。

速報係が見た。この劇の感想！

幼馴染グループが、今まで積み重なった些細なことが原因で壊れてしまう物語でした。幼馴染グループは、主に春の自分勝手なところも飛鳥が我慢することによって成り立っていました。ですが、祥一と春が付き合っていたことを知り、飛鳥は裏切られたような気持ちになっていたんだと思いました。それぞれの気持ちを素直に相手に伝えることができなかったことで起こった悲劇だと思いました。内容としては暗い物語でしたが、さりげない高校生の楽しい日常を、音楽にのせてダンスをしたり、身振り手振りを使ってたりしてうまく表現できていた明暗がはっきりしていると思いました。

担当：富山県生徒実行委員会 速報係 舟上、旭